

# 国語科学習指導案

日時 平成19年11月8日(木)5校時  
学級 二戸市立浄法寺中学校3年A組  
(男子9名、女子15名、計24名)  
場所 3年A組教室  
授業者 三浦純奈

1 単元名 論理の展開 (文章の論理的構成をとらえ、自分の意見を深める)  
教材名「生き物として生きる」

## 2 単元について

### (1) 教材について

本単元では明確な筆者の主張について、文章構成に注意しながら読み、自分なりの考えをもつという学習をする。筆者の主張がどう明確に述べられているかを、根拠の示し方、論理の展開の仕方などに注意しながら読み取るとともに、主張をそのまま受け入れるのではなく、自分なりの考えをもちつつ読みを深めさせていく。

本教材は日常のありふれた言葉から生命と科学技術のかかわりへと論が展開していく。辞書的な意味以外の意味で文脈上使われている「便利」「作る」という言葉から「機械」「生き物」そして「人間」へ...と徐々に人間の「思い通りにしたい」という慢心した考え方にある問題の重大性が明らかにされている。

1年では各段落の役割、2年では文章の役割に着目した。それらの学習を踏まえて3年では主張を支える根拠や理由に着目すること、さらにはその根拠の妥当性、論理の展開の仕方に見える筆者の工夫にも気付かせたい。

### (2) 生徒について

平成19年度10月に実施した国語の説明的な文章の読解問題では、同じ内容の言い換えとなる語句を見つけること(正解率13.0%)、段落内容を簡潔に表現した語句を見つけること(正解率0%)ができなかった。耳慣れない語句や、文の言い回しが複雑な文章であればなおさら、文脈に即して語句や表現の意味を正しくとらえる力、内容を読み分けていく力が必要である。さらに辞書的な意味と文脈の中での語句の意味や表現の違いに着目しながら読み、そこから自分の考えを広げ、深めていけるようにしたい。

平成18年度に実施したCRTにおいて、本学年は全領域が全国比と同じもしくは全国比(100)以上となっている。さらに小領域別内容でも本単元に関わる「文章の特徴に注意して読み取ること」「文章の要旨を正しく読みとること」の得点率も全国比を上まわっている。

## 3 小中の効果的な連携のための指導構想

教科研究テーマを「正しく読み取る力を育てる指導のあり方～読むことと言語事項を関連させた指導の工夫を通して～」の小、中共通のものとし、「読むこと」の学習内容について〔言語事項〕を組み込むことによって内容理解につながるような授業(指導法)の工夫に取り組むこととした。

「読むこと」の論理的構成をとらえ自分の意見を深めながら読むことに関して、小学校では「書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらか読むこと」(5・6年)、中学校では「文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くすること」(1年)「文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見を持つこと」(2年)〔言語事項〕では「事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと」(中1年)「抽象的な概念などを表す多様な語句についての理解を深め、語感を磨き語彙を豊かにすること」が既習事項となっている。

小学校で行われている辞書を用いたの語句の意味確認、一人学びから全体への課題の練りあいの場面の設定などを踏まえ、本単元では、生徒の実態に合わせて定着が不十分な内容を補うような指導を工夫することや単位時間の中に個で考える場面と集団で高めあう場を設定し、どの生徒も自分の考えを持てるよう工夫すること(仮説1)、音読や辞書を引く時間を多く設定し、読み取りにつなげること(仮説3)を重点として授業を構想する。

#### 4 指導目標

- ・筆者の主張を読み取り、人間と科学技術の在り方について考えようとしている。〔関心・意欲・態度〕
- ・筆者の論理展開を的確にとらえ、筆者の主張の根拠を読み取ることができる。〔読むこと ウ〕
- ・筆者の考えをもとに、人間が生きることと科学技術に関する考えを深め、自分の意見をもつことができる。〔読むこと エ〕
- ・語句の辞書的な意味と文脈上の意味との相違に気付くことができる。〔言語事項(1) イ〕

#### 5 指導計画及び評価規準

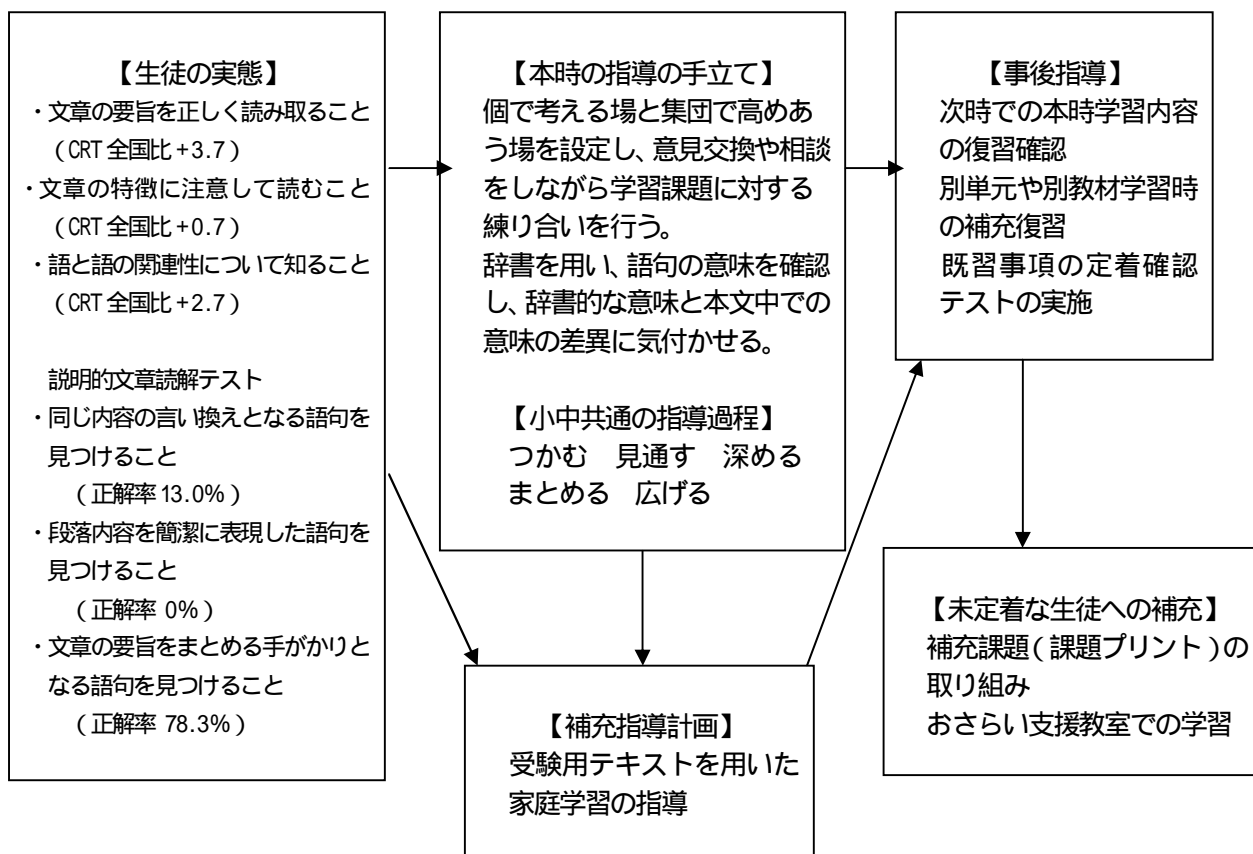
時数	学習内容	評価規準	小学校との関連・既習事項
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文の語句の意味を調べ、読み方を確認・通読し、おおまかな内容をとらえる。</li> <li>・説明的な文章の基本的な構成と役割について確認する。</li> </ul>	<p>言 本文を通読し、語句の意味や新出漢字の読み方を調べている。</p> <p>関 積極的に調べたり読んだり、構成について想起したりしている。</p> <p>・「生き物として生きる」という言葉に興味を示し、納得したり疑問に思ったりした根拠を述べようとしている。</p>	<p>言 小5・6 (1)ウ 表現したり理解したりするために必要な語句について、辞書を利用して調べる習慣を付けること。</p> <p>言 中2 (2)ア 第1学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字のうち300字程度から350字程度までの漢字を読むこと。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章のまとまりに着目して読み、文章の構成と論理の展開をとらえる。</li> </ul>	<p>読 本文の表現や語句を根拠として、文章を内容から三つのまとまりに分けている。</p> <p>関 積極的に考えたり調べたりしている。</p>	<p>読 小5・6 エ 書かれている内容について事象と感想、意見の関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読むこと。</p> <p>読 中1 ア 文脈の中における語句の意味を正確にとらえ、理解すること。</p> <p>ウ 文章の中心の部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて、文章の構成や展開を正確にとらえ、内容の理解に役立てること。</p>
3 / 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の表現の仕方や論理の展開の工夫を読み取る。</li> </ul>	<p>読 筆者が「機会」と「生き物」を対比的にとらえていることを理解している。</p> <p>言 語句の辞書的な意味と文脈上の意味の違いがあることに気付いている。</p> <p>関 積極的に考えたり調べたりしている。</p>	<p>言 中1 (1)ウ 事象や行為などを表す多様な語句について理解を深めるとともに、話や文章の中の語彙について関心をもつこと。</p>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張を読み取り、その根拠をとらえる。</li> </ul>	<p>読 筆者の主張の根拠をまとめている。</p> <p>言 語句の辞書的な意味と文脈上の意味の違いがあることに気付いている。</p> <p>関 積極的に考えたり調べたりしている。</p>	<p>読 中1 イ 文章の展開に即して内容をとらえ、目的や必要に応じて要約すること。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の主張に対して、根拠や理由を明確にして自分の考えをまとめ、発表する。</li> </ul>	<p>関 積極的に興味を持ったことや感じたことについて考えたり、記述したりしている。</p> <p>読 根拠を明確にして自分の考えをまとめている。</p>	<p>読 中1 オ 文章に表れているものの見方や考え方を理解し、自分のものの見方や考え方を広くすること。</p>

#### 6 本時について

##### (1) 本時の目標

筆者が「作る」という観点から、「機械」と「生き物」についてどのように述べているかを読み取ることができる。

(2) 本時の指導構想



(3) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点(支援・評価)
つかむ 5分	1 学習の心がまえをつくる。	1 前時に確認した構成とそれぞれの大まかな内容について確認する。	1 全17段落のうち 「導入」段落 ~ 「本文」段落 ~ 「まとめ」段落 であったことを確認させる。  2 きちんと発声するよう促す。
	2 学習課題を確認する。  「作る」という観点から「機械」と「生き物」について筆者がどのように述べているかを読み取ろう。	2 課題をノートに書き、斉読して確認する。	
見通す 10分	3 学習範囲を確認する。 (1) 音読する。 (2) 黙読する。	3 学習範囲確認のため「本文」段落 ~ を読む。 (1) 起立し、1回音読する。 (2) 着席し、黙読する。	3 姿勢・発声について注意を促し、最も遅い生徒が音読を終了した時点で次の活動へ移らせる。  4 「作る」という言葉が、筆者独自の意味で文脈上使われていることを確認させる。  支「作る」という言葉の使われ方に着目させる。
	4 「作る」という観点について確認する。 (1) 辞書的な意味 (2) 本文中での意味 段落 「作る」という言葉には、思いどおりになるとか、思いどおりにしたいという気持ちが入っている。	4 「作る」という言葉の意味を確認する。 (1) 国語辞典で調べ、意味をノートのメモ欄に記入する。 (2) 筆者が「作る」という言葉について述べた部分を本文中から見つけ、ノートに書き抜く。	

<p>深める 20分</p>	<p>5 「機械」と「生き物」について読み取る。 (1)個人 段落 生き物は機械のように人間が設計して作るものではなく、生まれてくるものである。 段落 人間ももちろん生き物であり、設計図をかいて部品を集め、作り出すものではないことはだれもが知っている。 (2)小グループ</p>	<p>5 「機械」と「生き物」について根拠となる記述を探し、読み取り、まとめる。 (1)個人で教科書の記述から見つけた部分を書き抜く。 (2)小グループでは相談や根拠を確認しながら課題を練り合い、まとめる。</p>	<p>5 「生き物」の具体例として「野菜(育つ)」「人間」が用いられていることを確認する。  支線り返し使われている「生き物」を含む表現や筆者が例に挙げている事柄、「 」でくられた語句などに着目させる。</p>
<p>まとめる 10分</p>	<p>(3)全体での確認 ・機械は もの ・生き物は もの</p>	<p>(3)小グループでのまとめを発表し合う。</p>	<p>評「機械」「生き物」「人間」「設計図」「遺伝子」という言葉を対比的に用い、主張を展開していることを理解している。 (3)他のグループの発表を聞き、不足部分があれば補足させる。</p>
<p>広げる 5分</p>	<p>6 次時の予告</p>	<p>6 筆者の主張を予想する 段落 思いどおりにしたいという気持ちには歯止めをかける必要がある。 段落 思いどおりにしようとするならば無理がある。</p>	<p>6 本時の学習範囲の中に筆者の主張につながる意見があることに触れる。</p>

(4) 本時の評価

観点	おおむね満足できる
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・筆者の使っている「作る」という言葉の意味を理解している。</li> <li>・筆者が「機械」と「生き物」を対比的にとらえていることを理解している。</li> </ul>

(5) 板書計画

<p>メモ 「作る」(辞典) 新しいものを「しらえる」いろいろなものを組み合わせる 材料を加する 育ちあげる 成熟させる 生産する 苦心して用意する 形を整える 化粧する わざわざしらえる</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>「機械」は人間が設計図をかいて部品を集めて「作る」ものであるが、「生き物」は人間が遺伝子で「作る」ものではなく、「育つ」ものであり、「生まれる」ものである。</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p>← 生き物 : 生まれてくるもの ( ) 例 野菜(育つ)・人間 遺伝子をもちながら一つひとつが 皆違っていてできる ( )</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>「機械」 : 人間が設計して作るもの ( ) 設計図をかき、部品を整えて組み立てる ( ) 設計図をかいて部品を集め、作り出す ( ) 同じ機械を幾つでも作ることができる ( )</p> </div> </div> <div style="margin-top: 20px;"> <p>「作る」(段落) ( ) 思いどおりになる・思いどおりにしたい という気持ちの意味に入っている 比「便利」(段落) ( ) 思い通りのことが速くできること</p> </div> <div style="margin-top: 20px; border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生き物として生きる 中村桂子 「作る」という観点から「機械」と「生き物」について、筆者がどのように述べているかを読み取る。</p> </div>
----------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------